

花 山 だ よ り (五月)

鯉のぼりが臺の波に乗つて、五月晴の空を泳いでゐる4日に、山本先生が臺灣から歸つて來られました。夏服でも暑い臺灣から歸つて來られたので、スプリングコートを着ておられてもまだ寒そうです。早速中食後官舎食堂で臺灣旅行の話を伺ふ。心配されてゐた臺中出張所は無事だつたので、歸途震源地附近を視察された時の模様を、臺灣の地圖に就いて一々詳しく説明されました。

ジャバのレンバン天文臺で研究してゐたソレンキスト氏が7日に神戸に着き、暫らく京都に滞在する事になつたので、當日は山本臺長夫人と稻葉氏が神戸迄出迎へに行つて、夕刻京都に着。直ちに樂友會館に案内し宿泊する事になりました。花山では文字通り遠來の珍客を迎へたわけですから、何んとかして此の學問の友達を心から歓迎し度いと言ふので相談をした結果、臺員一同交代して近郊の名勝地を案内しやうと言ふ事に定まりました。で8日は先づ天文臺に案内し、9日は旅行事務で神戸に行き度いと言ふので高城氏が案内しました。同夕刻は花山の官舎の臺の上でスキヤキを御馳走。ワ氏は箸を買ひ求めて居て、フォークを出しても、それを斷はり箸でガンバツて不馴れな手付きでパクついておりました。夕食後は本館圖書室で同氏の講演があり、幻燈使用で約1時間、其の間新聞記者が來てフラツシュを盛んにたいたりしましたが、盛會裡に21時頃終りました。扨て10日からは各地の案内で、先づ、10日に公文、荒木(健)兩氏案内で比叡山、坂本、大津を見物。11日は荒木(九)、堀井、山本(修)3氏が市内、嵐山を。12日は上島、柴田兩氏で桃山、宇治。13日荒木(健)、山本(修)兩氏、奈良、大阪。14日山本先生、大學。15日に山本夫人と葵祭を見物して花山へ。此の日は紀念寫眞を玄關前で撮影。これで案内は先づ終つたので、16日は休養して、17日朝京都發で東上しました。丁度幸ひ、高城氏は東京へ出張の要件があつたので、同じ列車で東上。更らにワ氏は日光に行き度いと言ふので、序に道案内を務められました。

生駒山天文氣象臺の實現は最早や時期のみの問題となつて、日下建設事務のため、大軌との交渉は頻繁に行はれてゐます。山本、上島、稻葉の諸氏は

大阪本社又は生駒山上へ度々出張され、先方からも亦度々花山や臺長御宅へ社員が来る状態で、本誌発行の頃には既に工事も相當進んでゐる位ひになるでせう。又、大阪にプラネタリウムが出来る筈で、其の方面の人々も種々協議や質問に来るので山本先生は御忙がしそうです。此等のため無理をされたのか、山本先生は17日から風邪を引かれ約1週間休まれました。公文氏は善通寺工兵第11大隊へ復習のため、28日から3週間入營される事になり、26日下山されました。官舎會計の事で、臺長並びに柴田氏へ大變な御迷惑を御かけして了つた事は臺員一同誠に相濟まぬ事と思つて居ります。

氣候がよくなると共に天文臺參觀希望者は非常に増加して、此方では斷はるのに苦心するありさま、人數を制限したり、時間を定めたりしてやつと鋭鋒を避けてゐる状態です。それでゐても時としては、門前市をなす盛況を呈し、案内子を啞然たらしめる事があります。生駒山に出来たら、此方は落ちついて勉強が出来るだろうと楽しみにしてゐます。

15日に大學理學部全體の防火設備協議會が大學で開かれ、花山からは稻葉氏出席、消火器、破壊道具等の數量を決定しました。山としてはプールの様な大貯水池が欲しいのですが。

18日の例會は雨天のため且つは山本先生御病氣のため中止となりました。

ルンペンからブルジョアになつた話を御紹介ませう。某氏（勿論臺員の方です）が去る日、大阪の御親戚を訪問され、話が長引いて遂ひに夜中の1時近くになりました。泊つて行けと言ふのを無理に斷つて大阪驛まで行かれた所、驚いた事には上りの汽車がなく5時まで待たねばならぬ事が判りました。旅館に泊らうかどうしやうかと思案してゐる内に、驛員が「戸を閉めるから出て呉れ」と、到頭追ひ出されて了ひました。さては公園のベンチで一夜を明かすルンペンに成つたかといふに大いに怖げて驛を出た所を自動車の助手につかまりました。京都へ行くのなら連れがあるから是非乗つて呉れと言ふのです。渡りに船と喜ばれて車に乗らうとして、タヂタヂと後退せざるを得ませんでした。併し遂に無理やりに乗車させられて了ひました。其の連れと言ふのは、なんと祇園の藝妓2名！斯くて某氏は、2人まで連れて京阪國道をドライブするブルジョア氣分を味つた？次第です。（星見山人）